

# 東北大学 史料館だより

## No.3 2002 Oct.

### もくじ

これからの大学と「大学アーカイヴズ」	受贈史料・受贈図書……………6
西山 伸（京都大学大学文書館）……2	日誌抄……………7
企画展「東北帝国大学と女子学生」展から……4	お知らせ……………8
活動記録……………5	



### 史料館古写真帖

### 総長選挙

昭和9年（1934）、本多光太郎総長（第6代）再選時の記念写真。当時は予備選挙で候補者を11名に絞った後、全学の教授を集めて決選投票を行い、次期総長を選んでいた。当時総長選挙は、全学の教授が一堂に会する数少ない機会であった（写真の人名は8ページ参照）。

東北大学の総長選挙は、第4代小川正孝総長（在任1919～1928）の時期から行われている。当時、京大総長沢柳政太郎（本学初代総長）が人事権をめぐる教授会との対立で辞職を余儀なくされた、いわゆる「沢柳事件」などをきっかけに、学内教授による総長の公選制度が京都・東京等の帝国大学で検討・導入されていた。東北帝大では、大正11年（1922）に選挙内規を制定して公選制を制度化し、以後形を変えつつ現在に至っている。

## これからの大学と「大学アーカイヴズ」

西山 伸 (京都大学大学文書館助教授)

情報公開法の施行や百年史の編纂をきっかけとして、京都大学では一昨年、保存年限を過ぎた大学公文書の評価選別と保存・公開を体系的に行う本格的な大学アーカイヴズとして「大学文書館」が設置され、現在本格的な活動開始に向けての準備が進められています。同館の西山助教授に、「大学文書館」の紹介を兼ねて、大学アーカイヴズの意義、その果たすべき役割等についてご寄稿いただきました。

2000(平成12)年11月1日、京都大学に大学文書館が設置された。本格的な大学アーカイヴズとしては、日本で最初のものと言えるだろう。本稿では、大学文書館の設置から現在、そして大学におけるアーカイヴズの意義について考えるところを述べてみたい。

### ●大学文書館設置の経緯から

大学文書館の設置の具体的な経緯については紙幅の関係もありここではふれることはできない(詳しくは、拙稿「京都大学大学文書館 -設置・現状・課題-」全国大学史資料協議会西日本部会編『大学アーカイヴズの設立と運営』2002年、を参照)。ただここで一点指摘しておきたいのは、設置の要因に『京都大学百年史』編集終了後の史料利用の問題と並んで、行政機関の保有する情報の公開に関する法律(情報公開法)への対応のなかで学内行政文書の一貫した管理の必要性があげられたということである。

つまり、情報公開法においては言うまでもなく現用の行政文書について厳密な管理が義務づけられたわけだが、現用文書と一体不可分のものとして保存期間の過ぎた非現用の行政文書についても責任ある管理体制を構築することとしたのである。

これは大学文書館の性格を決定する上で大変重要なことで、大学文書館が、いわゆる古文書類を収集する機関ではなく、日々生産される大学の行政文書の流れのなかにしっかりと位置づけられたことを意味する。言い換えれば、大学文書館は行政文書の適切な管理を行うことで大学行政の効率的な運営を行うための一翼を担うことになったのである。そして同時にこれらの行政文書を閲覧に供することで、創立から将来に至るまでの足跡を社会に対して説明する責任を果たす機関となったことになる。さらに言えば、大学の個性化が求められている現在、正確な歴史認識に基づいた情報を提供し、大学のアイデンティティーの確立に大きな役割を果たすことも期待されるのである。

### ●大学文書館の現在

上に述べてきたことから分かるように、大学文書館の業務の重要な柱の一つは非現用の行政文書の管理である。具体的には、事務局や各部局から毎年非現用となった行政文書を受け入れ、内容を確認して目録を作成し、個人情報保護の観点から公開基準を定めて閲覧に供し、さらに効率的な管理を行うため一定の基準を設けて選別・廃棄を行う、といったことである。これは実際に行ってみると大変な作業で、事務局から2万3,000冊の行政文書ファイルが大学文書館書庫に搬入されてからまもなく1年になるが、正確な目録はまだ完成していない。しかし、2004年4月に予定している本格開館時には、できるだけ多くの行政文書が閲覧に

供せられるよう作業を行っていきたい。

しかし、このように行政文書が大学図書館の扱う資料の重要な柱であることは間違いないが、大学の姿は行政文書だけで明らかになるようなものではない。制度的変遷に限ってみても、ある物事の起案や結論は行政文書から知ることはできても、起案に至る諸条件や中途における議論の経過、また決定に至らなかった代案の存在など、現在の行政文書の残し方の問題もあって、分からないことが少なくない。また、研究・教育等の大学の多様な営みに至っては行政文書のみではその豊かな姿を明らかにできないことは言うまでもない。こういった側面を補ってくれるのが、われわれが「個人資料」と呼んでいる大学関係の個人や団体が所蔵している資料である。「京都大学百年史」編集時はもちろん、大学図書館の設置後もユニークな個人資料が数多く寄贈・寄託されており、これらの整理、公開作業も大学図書館の業務の重要な柱となっている。



大学図書館の書庫

これらの資料を利用した調査研究活動も大学図書館の重要な業務である。調査研究の具体的内容は、一つは実践・理念両面のアーカイヴズ論、もう一つは収集した資料を利用した大学史・高等教育史である。今秋には「京都大学大学図書館研究紀要」が創刊される予定であり、今後も目録、資料集、報告書等による研究成果の公表を行っていかねばならない。

大学図書館の活動や京都大学の歴史についての情報を学内外に知らせる広報活動もわれわれが業務を円滑に行うために不可欠なものである。広報誌『京都大学大学図書館だより』（年2回発行）は今秋に第3号を発行することになるし、ホームページもすでに開設している。また、2004年に移る時計台記念館では京都大学の歴史についての展示も行うことになっており、現在その準備を進めている。資料に基づいた展示は、大学の存在意義を社会にアピールするのに絶好の場となるであろう。

## ●大学におけるアーカイヴズ

国家や自治体、企業等の組織がアーカイヴズを設置するのは、自らの営みを表す記録を適切に管理し、そのことによって現在および将来の組織運営に役立たせると同時に、広く社会に貢献しようとするからに他ならない。大学におけるアーカイヴズも基本的には同じである。まず大学の組織としての営みをいちばんよく示す資料である行政文書の管理を行い、そして大学の豊かな姿を示す個人資料を扱う。これらの資料を学内外に広く公開して自らのあり方について点検・評価を行う基礎を提供するとともに、アーカイヴズそのものも調査研究の主体として自らの大学についての研究成果を公表する。こうすることによって、大学は社会に対する真の説明責任を果たすことになるはずである。大学が大きな変革期を迎えている今こそ、アーカイヴズを設置することが求められるのではなかろうか。

## 企画展「東北帝国大学と女子学生」展から

3月1日～5月2日 於、史料館展示室

1913年（大正2）に日本初の女子学生が東北帝国大学で誕生したことは、東北大学の「門戸開放」の源流の一つとして今でもよく取り上げられる。しかし、旧制大学時代を通じた東北大学における女子学生のあり方の変遷そのものについては、あまりまとまった形で知られていないようである。今回の展示ではこの点を具体的に明らかにし、紹介することを目指した。

旧制時代の女子学生の数は、毎年500名以上もの女子学生が入学する現在と比べると本当に微々たるものだが、それでもおおよそ三つの時期に区分できる。

まず第一期は、最初の女子学生が在学した時期である。大正2年入学の黒田ちか・牧田らく・丹下うめの3名はいずれも、その出身校で教職に就く身であった。その出願の背景には、本人の向学心は無論のこと、性別を越え優秀な学生を確保したいという大学側の意向、大学出の卒業生を教員として採用したいという出身校側の意向が存在した。この出来事は大きな社会的反響を呼び、その直後から他の学校等から試験問題・出願資格等の照会が東北帝大に來ている。但し実際には出願者が続かず、その意味ではまだ特殊な「事件」であった。

第二期は、1920年代から30年代にかけて。東北帝大では1922年に2名の女性が聴講生として理学部に入り、翌年にはこの2名を含む5人が学生として入学。以後継続的に女性の入学が見られるようになる。法文学部や理学部では女子高等師範・専門学校卒業を受験資格として認定したが、それは高等教育機関に進学する女性の増加という当時の社会的傾向を反映したものである。この時期には九州や北海道等の帝国大学や一部の私立大学でも女子入学が認められ

ていった。しかし、大正2年の3名など出身校の教壇に戻った女子卒業生たちの影響などもあり、帝国大学中最も多く女性を集めたのは、やはり東北帝大であった。その中にはソウル・梨花女子専門学校（現・梨花女子大学校）出身の3人の女子学生が含まれ、中国からも1931年以降数名の女子学生が入学している。無論東北帝大が特に女性を意識した教育を行っていたわけではない。しかし昭和初期には「芝蘭会」という女子学生・卒業生の同窓組織が結成され、東北帝大における女子学生の存在は、次第に根を下ろしはじめていった。

第三期は、1940年代である。グラフでもわかるとおり、女子入学の数は再び急激な上昇カーブを描き始め、1943年に二桁に到達、翌年には一気に17名に増える。以後も旧制最後の募集となる1950年まで、毎年10人程度の入学者があった。特に戦時下の1943・44年頃に急激な増加が見られるのが興味深い。但し当時大学は戦時体制の只中であり、彼女達も入学後まもなく勤労働員に駆り出されていった。

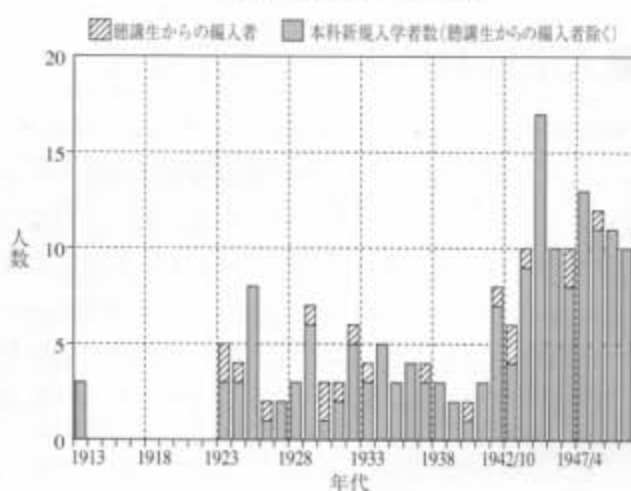
旧制高校出身者を入学させるという建前上、東京・京都の両大学では戦前期には一貫して女性の学生としての入学は認められなかった。こうした背景もあり、大学での学問を志す女性たちが、全国から仙台に集まっていた。東北帝大の女子入学については、大正2年の「事件」のみでなく、こうしたその後の実態とその変遷を踏まえて、その社会的意義を考えていく必要があるだろう。

（永田英明・史料館研究員）



「芝蘭会」での記念写真か（昭和11年頃。梶井幸代・重雄氏提供）

学部本科女子入学者数の変遷



（このグラフは、当館所蔵史料の調査に基づき永田が作成した）

## 活動記録

### ●企画展

「天は東北 山高く ―旧制二高と仙台―」(平成13年10月11日～11月2日)

第二高等学校尚志同窓会との共催で上記企画展を開催し、当館所蔵史料を中心とする、約150点の二高関係資料を展示しました。期間中は524名の来館者がありました。

「東北帝国大学と女子学生」(平成14年3月1日～5月2日)

春の特別企画として、旧制大学時代の女子学生をテーマとする上記企画展を開催し、期間中615名の来館者がありました。

### ●旧制二高関係資料の整備について

史料館では戦後の学制改革で東北大学に包括された旧制第二高等学校に関する史料の収集と公開を、第二高等学校尚志同窓会等の協力によって続けてきましたが、このたび二高創立115周年記念事業の一環として当館所蔵の二高史料の目録整備とマイクロフィルム化が行われることになり、すでに昨年10月の二高115周年記念式典において、同会から本学阿部総長に、マイクロフィルム一式の目録贈呈が行われております。

現在事業はまだ進行中ですが、『尚志会雑誌』等の刊行物、同校や同窓会に関する公文書、明善寮など各寮の寮日誌など、「旧制高校」やそこで青年期を過ごした人々の軌跡を記した貴重な資料を、より利用しやすい形で提供できるようになる予定です。

### ●定年退官教官著作目録・肖像写真の作成

平成13年度定年退官予定教官46名(13年4月現在)のうち、32名の著作目録、29名の肖像写真を作成しました。目録は史料館のほか附属図書館(分館含む)及び一部の部局図書室で閲覧出来ます。

### ●研究会等への参加

「全国大学史資料協議会」(10月3日～5日 於神奈川大学)

神奈川大学を会場に開催された全国大学史資料協議会全国研究会に、史料館から永田研究員が参加しました。研究会では2本の基調報告と、「大学アーカイブズの設立と運営」という統一テーマの下、二分科会に分かれての討論が行われました。

「大学アーカイブズに関する研究会」(2月20日・21日 於京都大学)

京都大学において「大学アーカイブズに関する研究会」(主催:京都大学大学文書館)が開催され、東北大学からも史料館及び百年史編纂室のスタッフが参加しました。研究会では、各大学における行政文書や大学史資料の保存・公開に関する現状報告が行われた後、「国立大学におけるアーカイブズのあり方―理念と実態―」というテーマのもと、大学アーカイブズの大学自身にとっての意味、大学アーカイブズと図書館・博物館等との連携のあり方などの問題について議論が行われました。

### ●史料館への問い合わせ(抄出)

石原純氏について/各キャンパスの配置図・航空写真等/東北大学教官の文化勲章等受賞者/昭和天皇行幸に関する公文書/明治45年5月二高送別会の漫画絵はがきに描かれた人物/小宮豊隆について/臨時教員養成所とその校友会/二高寮歌等のCD/『東北大学新聞』(昭和20年復刊)の閲覧/歴代総長について/昭和23年頃の川内の写真/カール・レーヴィッドが住んだ外国人宿舎/「栗野観音像」の建立場所/岡山医専・岡山医大の「一覧」/多田等観および法文学部の疎開関係資料/アインシュタイン来仙時の宿泊先/川内地区が米軍から移管された頃の写真/蘇歩青氏在学中の資料/第一・第二臨時教員養成所の場所/深田康算について/吉野作造と交流のある二高・東北大関係者/図書館疎開時の覚書があるか/『東北大学学生新聞』の所蔵状況/江角ヤス氏について/仙台空襲直後の医学部の様子/原龍三郎・高橋ふみについて/昭和20年代の東北大学学報/地質学科の移転関係資料/堀経夫・鈴木義男について/東北大学への留学生について/仙台医専在学中の魯迅の写真 ほか

## 受贈史料

(2001年9月～2002年8月・抜粋)

### ●他部局移管史料

生命科学研究科移管文書

学務部移管文書

総務部総務課企画文書掛移管文書

御真影額縁／教養部優勝旗 (国際文化研究科)

熊谷岱蔵画掛け軸「肺気管支図」 (加齢医学研究所)

### ●その他の機関・個人史料

軟式野球部全国大会出場関係資料 (準硬式野球部)

本川弘一元学長遺作展資料 (医学系研究科・丹治順教授)

薬学部薬理学講座アルバム等 (薬学研究科・草場美津江)

有井癸巳雄元教養部教授書扁額・写真等 (玉手英四郎)

旧制二高卒業生石渡信太郎氏旧蔵写真等 (根岸鈴子)

旧制二高メダル・バックルほか (日下部甲太郎)

旧制二高護国尚志会メダル・賞状 (小林浩一)

第二高等学校大正八年卒二部三年卒業記念アルバム (大森祐一)

岡崎義恵・山田龍城元文学部教授色紙 (水野弥穂子)

旧制二高・理学部等関係写真 (宇田尚名誉教授)

昭和17年度旧制二高明善寮第一寮記録 (小松 実)

旧制二高校長玉虫一郎氏旧蔵勲記・勲章等 (玉蟲久五郎)

東北大学第一号卒業証書・学位記ほか (赤尾綱男)

瀨戸八郎元医学部教授出征時の寄せ書き日章旗

東北大学イールズ事件関係資料 (河相一成名誉教授)

桑熈眞次氏(二高・医学部卒業生)旧蔵資料 (綿貫友子)

東北大学制帽 (佐藤益美)

旧第二教養部運動会写真等 (大森浩明名誉教授)

斎藤恒三研究室実験記録フィルム等 (渡辺俊六)

柳沢広三郎旧蔵仙台医専卒業証書・受講ノート等(柳澤澄子)

小林好日元法文学部教授八ガキ (水野弥穂子)

池辺常刀氏旧蔵石原純・長岡半太郎等書簡 (阿部瑠璃子)

中川元二高校長関係写真等 (中川浩一)

旧制二高関係写真等 (阿部照衛)

「監視・抑制・調停について」 (宮北 要)

法文学部女子学生関係写真等

(梶井幸代・重雄、佐々木美知子、森岡美子)

林鶴一「公算論」 (阿部峻也)

定年退官教官寄贈資料(大村虔一・藤井義明・小笠原國郎・久道

茂・大見忠弘・青山隆夫・山岸敏弘・本河光博・刈田啓史郎)

ほか

## 受贈図書

(定期刊行物除く。カッコ内は寄贈者)

有賀美智子追悼文集刊行委員会編「有賀美智子追悼文集」

(有賀千代見)

和田一夫・由井常彦著「豊田喜一郎伝」 (河上増雄)

小嶋敏夫著「旧制第二高等学校・校舎の歴史」

(二高尚志同窓会)

山下愛子編「近代日本女性史 科学」ほか (山下愛子)

堀伸夫著「科学と宗教－神秘主義の科学的背景」

(西澤潤一名誉教授)

金沢規雄著「近代文学と仙台Ⅱ…続・ある流れに…」

(金澤規雄)

野口芋村(野口明)著「随筆 旅と画」 (塩田長和)

杉元賢治著「アインシュタイン日本で相対論を語る」(杉元賢治)

「第二高等学校二十四修 修業五十周年記念文集」(沼田俊則)

山路賢吉著「扁舟残影」、「扁舟餘話」、「統統扁舟餘話」

(山路巴和子)

村岡圭子著「青嵐」、「花情話」ほか (村岡圭子)

「蘇歩青教授百歳記念文集」 (復旦大学)

蘇歩青著「理想・学習・生活」、「数と詩的交流」 (復旦大学)

坂本守著「獅子奮迅 松前重義物語」 (東海大学)

若尾瀧水著「若き日の瀧水丁亥日誌・他」ほか (若尾慎二郎)

森田実成著「小説 杜の都」 (加川義一)

「おみなえし」 (篠原瑞枝)

「大久保謙聞き書き」 (二橋進吾)

板橋宏子著「不滅の天才 伊達たまき先生」 (板橋宏子)

森本治枝著「ある女性数学者の回想」 (渡部治雄名誉教授)

佐藤喜代治著「日本語の精神」 (佐藤喜代治名誉教授)

村上謙吉著「メタセコイア下の学生生活」(村上謙吉名誉教授)

佐藤源貞著「戴振鐸教授と私」 (佐藤源貞)

工学部建築学科創立50周年記念学術事業会「東北大学工学部

創立50周年記念誌」

東北大学職員組合五十年史編さん委員会「東北大学職員組合

五十年のあゆみ」 (東北大学職員組合)

「辛酉会八十年史」 (辛酉会)

「福島市民オーケストラ50周年記念誌」 (古川 剛)

青木生子著「いまを生きる 成瀬仁蔵一女子教育のバイオニ

ア」 (日本女子大学)

「日本女子大学学園事典－創立100年の軌跡」、「年表日本女子

大学の100年」 (日本女子大学)

新谷恭明・折田悦郎編「大学とはなにか－九州大学に学ぶ人々

へ」 (九州大学大学史料室)

「関西学院事典」 (関西学院)

「関西大学115年のあゆみ」 (関西大学)

「学習院大学五十年史」下 (学習院大学)

「120年の学譜」 (明治大学)

「東京女子医科大学百年史」、「同資料編」(東京女子医科大学)

「大谷大学百年史」、「大谷大学百年史 資料編」(大谷大学)

「東京農業大学百年史」 (東京農業大学)

「南山大学五十年史」 (南山大学)

「拓殖大学百年史 部局史編」(拓殖大学創立百年史編纂室)

「神戸大学百年史 通史Ⅰ[前身校史]」、「神戸大学百年史 写

真集」 (神戸大学)

「納函記念録(復刻版)」 (立教学院史資料センター)

「仙台市史通史編3 近世1」、「仙台市史資料編6 産業経

済」 (仙台市博物館市史編さん室)

※このほかにも多くの資料・図書をご寄贈いただきました。

# 日誌抄 (2001年9月～2002年8月)

## 2001年

- 9/3 旧制一高同窓会奥田教久氏来館(二高資料について)
- 9/5 史料館月例会議
- 9/10 企画展準備のために展示室閉室
- 9/11 理学部90周年記念「理学部草創期の科学者たち」展(～9/28)
- 9/19 ホームページがウィルスに感染、公開を中止
- 9/20 阿部総長来館(企画展)
- 9/27 百年史編纂室スタッフ会議(永田研究員出席)
- 10/1 2F展示室内において雨漏り
- 10/2 史料館月例会議
- 10/3 永田研究員、全国大学史資料協議会(神奈川大学)出席(～10/5)
- 10/9 宮城県公文書館より展示用資料借用
- 10/9 企画展準備のために展示室閉室(～10/10)
- 10/11 二高115周年「天は東北山高く一旧制二高と仙台」展開催(～11/2)
- 10/12 雨漏り修復工事(～10/17)
- 10/16 長野県長野高校49名見学
- 10/20 二高創立百十五周年記念祭にあわせ特別開館(～10/21)  
第二高等学校尚志同窓会より、二高資料のマイクロフィルム一式について、目録受贈
- 10/22 展示室、臨時閉室
- 10/24 百年史編纂室スタッフ会議(永田出席)
- 10/29 藤井仙台市長来館(企画展見学)
- 11/1 阿部総長、企画展見学のため来館
- 11/5 展示替えのため展示室閉室(～11/8)
- 11/6 史料館月例会議
- 11/13 山形県新庄北高校160名見学
- 11/15 工学研究科に資料調査
- 11/19 中国貴州省経済研修視察訪日団一行展示見学
- 11/22 中国・紹興市訪問団展示見学
- 11/28 百年史編纂室スタッフ会議
- 11/29 京都大学大学文書館より3名来館(当館視察のため)
- 12/4 史料館月例会議
- 12/6 中国科学技術大学学長他1名、見学のため来館
- 12/7 文学部・文学研究科日本史実習(大藤修教授担当)による資料調査実習(千葉胤成文書の整理)(～12/21)
- 12/17 全学教育科目・基礎ゼミ(大村泉教授担当)による資料調査実習(卒業式答辞の撮影・翻刻)
- 12/18 第1回東北大学史料館の将来計画に関するWG開催
- 12/21 仙台市史編纂室より、資料調査のため来館
- 12/26 ハクビシンが館内に迷い込み、展示室を臨時休室(～12/27)
- 12/27 百年史編纂室スタッフ会議

## 2002年

- 1/7 全学教育科目・基礎ゼミ(大村泉教授担当)による資料調査
- 1/8 史料館月例会議
- 1/21 第2回東北大学史料館の将来計画に関するWG開催
- 2/1 上海交通大学副校長一行、展示見学
- 2/8 史料館月例会議
- 2/19 永田研究員、大学アーカイヴズ研究会出席(京都大学)(～2/21)
- 2/23 永田研究員、日本女子大・お茶の水女子大出張(調査)
- 2/27 企画展準備のため、展示室閉鎖  
第3回東北大学史料館の将来計画に関するWG開催
- 3/1 「東北帝国大学と女子学生」展開始(～5/2)
- 3/4 史料館月例会議
- 3/5 百年史編纂室スタッフ会議
- 3/6 史料館運営委員会
- 3/7 国文学研究資料館史料館より1名来館(当館視察)
- 3/15 NHK「名作をポケットに」撮影。佐高信氏ほか来館
- 3/17 企画展示にともなう特別開館
- 3/19 定年退職教授送別パーティー(著作目録・写真の配布)
- 3/28 百年史編纂室スタッフ会議
- 4/2 史料館月例会議
- 4/11 平成14年度定年退職予定教官に目録等作成案内を発送
- 4/20 企画展にともなう特別開館
- 5/8 史料館月例会議
- 5/13 百年史編纂室スタッフ会議
- 5/14 永田研究員、資料返却のため日本女子大学出張
- 5/16 東北学院大学青柳光太郎教授および学生一行見学
- 5/21 常設展示への展示替え作業のため、展示室休み
- 5/27 著作目録等作成希望者に対し、作成ガイドを発送
- 6/3 百年史編纂室スタッフ会議
- 6/5 史料館月例会議
- 6/6 各部局に対し、「刊行物の送付について(依頼)」を発送
- 6/8 中国国家発展計画委員会来日団一行来館
- 6/12 中国・復旦大学校長一行見学
- 6/19 永田研究員、全国博物館長会議出席(学術情報センター)
- 7/2 群馬県高崎高校2年生一行展示見学
- 7/3 史料館月例会議
- 7/24 史料館運営委員会
- 8/5 百年史編纂室スタッフ会議
- 8/9 古川市中央公民館一行展示見学
- 8/15 青森県弘前高校1年生一行展示見学
- 8/23 武大偉中華人民共和国駐日全権大使一行展示見学

展示のご案内

東北大学古写真館

—史料館の古写真コレクションから—

◇10月12日(土)～11月1日(金)

入館時間 10:00～16:00

10月12日(土)・13日(日)も特別開館します。  
その他の土日・祝日は休館です。

明治以来、学校では実に様々な「記念写真」が撮られてきました。今回の展示では、当館が収集したこれらの古写真を原資料のまま展示し、当時の人々が写真に託した「思い」を含めてご紹介したいと考えています。

ご来館お待ちしております。



土井晩翠先生海外留学記念写真（明治34年）

教職員の方々へ 史料館への印刷物・公文書等の移管について

—東北大学史料館資料収集規程の改正—

史料館では、東北大学の歴史にかかわる資料の収集保存と公開に努めております。なかでも大学自身が作成・授受した様々な行政文書や印刷物は、過去の大学の活動を検証する基本史料の一つとしてかけがえのない価値を持っており、大学は自らの手で、その歴史資料としての保存と公開に努める必要があります。

昨年4月に施行された「東北大学行政文書管理規程」、および今春に改正された「東北大学史料館資料収集規程」ではこのような観点から、学内諸部局から史料館への史料の送付・移管について以下のことを定めています。

- ①保存年限を満了した行政文書を廃棄する際は、史料館がその価値評価を行い保存が適切な文書の移管を受ける。
- ②その他東北大学の歴史資料としての価値を有する物品等についても、史料館に移管する。
- ③事務局及び各部局は、各々が作成した以下の印刷物について、1部を史料館に送付する。
 

1 年史、沿革史、略史等	2 大学要覧、大学案内、学報等	3 履修案内、シラバス等
4 自己点検・評価その他大学活動に関する報告書(研究論集等除く)	5 調査統計報告書その他の行政資料	
6 職員録その他	7 規程集、例規集等	8 その他本学の歴史に関係する印刷物

大学が産み出したこれらの資料を歴史資料として評価し後世に残していく上では、学内各方面のご協力が不可欠です。行政文書や古い物品の廃棄等に際しては、是非とも史料館にご一報下さいますようお願いいたします。

(表紙・総長選挙写真の人名一覧)

- 9列目 三枝彦雄/高橋 清
- 8列目 大類 伸/岩瀬慶三/石原寅次郎/増本 星/山田光雄/藤田敏彦
- 7列目 小山新絵/阿部次郎/栗生武夫/高橋 群/渡辺萬次郎/中村左衛門太郎/那須省三郎
- 6列目 原龍三郎/西澤恭助//小宮豊隆/高橋里美/田岡良一/土居光知/大久保準三/杉村七太郎/山川章太郎//長谷部言人/丸井清泰/近藤正一
- 5列目 渡辺 寧/砂谷智博/抜山平一//沼地福三郎/石田文次郎/藤本正晃/中川善之助/田原正人/山口弥輔/高橋純一//太田正雄/青木 薫
- 4列目 前田孝矩/浜住松次郎//宮城音五郎/広浜嘉雄/長谷田泰三/福井利吉郎/岡田良知/朴沢三二/藤瀬新一郎//佐藤 彰/八木精一
- 3列目 抜山四郎/石原富松//武内義雄/石原 謙/古田良一/佐藤丑次郎/野村 博/吉井義次/小林 巖//関口善樹/石川哲郎
- 2列目 柴田林之助//和田佐一郎/新明正道/金倉圓照/伊澤孝平/石川総雄/藤原松三郎/小町谷操三//加藤豊治郎/和田徳次郎
- 前列 村岡典綱/鈴木宗忠/岡崎文夫/千葉胤成/窪田忠彦/高橋 稔 //木村男也/明城弥三吉/熊谷岱藏

東北大学史料館だより 第3号 2002年10月1日発行

編集・発行 東北大学史料館  
tel. 022-217-5040  
E-Mail kinen1@mail.cc.tohoku.ac.jp

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1  
fax. 022-217-5042  
URL http://www.archives.tohoku.ac.jp